

平成二十七年七月五日 埼玉信者勉強会

神 示

「家庭の尊さ」 あるべき姿環境を教えん

皆信者に問う

なぜに神にすぎарのか その訳理由はいかに――

人人間の正体は魂 姿に眞実はない

見えない魂は 肉体に宿され 運命の力となつて

「人生」を悔いなき時代ものへと導いてゆく

見えないために 「運命」を見ずに 姿 形に心惑わされ

家族との縁を生かせず 人間関係に悩み 苦しんでいる

信者に申す

「教え」を学び 眞理に生きる心姿で 家族に触れるべし

神にすぎるとは 「眞理」に悟りを開き

家族の人生を悔いなきものへと導き守るため

「人生」を神に預けることをいう

「教え」に生きて 家族の心魂が重なるように と神に願つてごらん

自然と 家族の人生は 神の手の中守られて 家庭の尊さが見えてくる

夫婦は仲良く 運命を補い かばい合ひ

親子は会話を欠かさず 運命を重ね 信じ合ひ――

この環境に 人間魂の心は 神の手の中 導かれ 守られ 救われてゆく

神 示

――「運命」の力を信じて生きる――

難しいことは何もない

「教え」を学び 我が心人生に生かすのみ

日々「心」を見詰め 「教え」に生きるほど

皆信者の姿は自信にあふれ 「生きる」喜びを味わえる

家族の会話は 広がり 深まり

ああ 「人生」生きる喜びを味わえる